

## 2. 同和問題

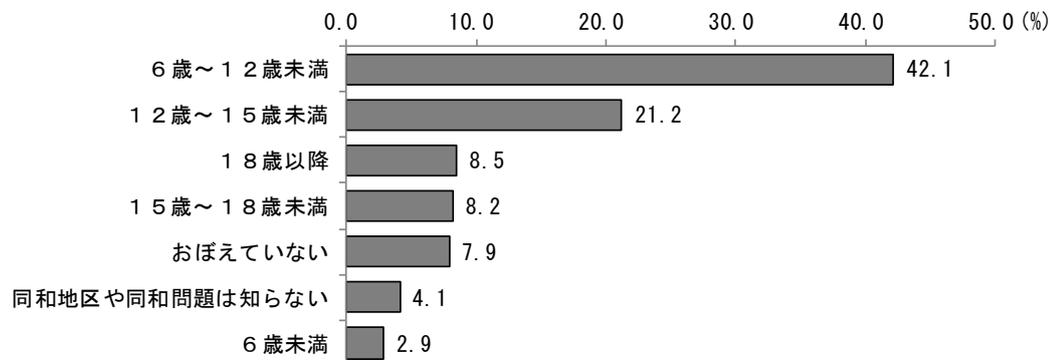
### (1) 同和地区や同和問題を知った時期

問2-1 あなたは、同和地区や同和問題について、はじめて知ったのはいつ頃ですか。

【○は1つだけ】

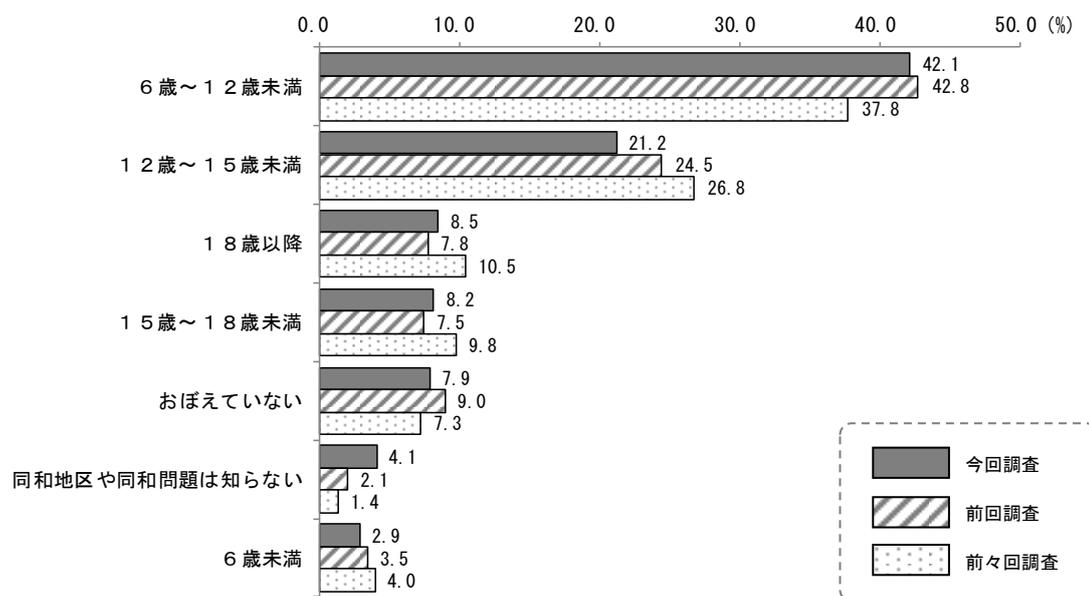
1. 同和地区や同和問題は知らない → (問3-1へ)
2. 6歳未満 (小学校に入る前)
3. 6歳～12歳未満 (小学生のころ)
4. 12歳～15歳未満 (中学生のころ)
5. 15歳～18歳未満 (高校生のころ)
6. 18歳以降
7. おぼえていない

図2-1 同和地区や同和問題を知った時期 (%)



同和地区や同和問題をはじめて知った時期については、「6歳～12歳未満」の割合が42.1%で最も高く、次いで「12歳～15歳未満」が21.2%、「18歳以降」が8.5%となっている。

図 2-2 同和地区や同和問題を知った時期（％） [過去調査との比較]



前回、前々回調査と比較すると、「同和地区や同和問題は知らない」の割合は増加してきており、「12歳～15歳未満」は減少してきている。

表 2-3 同和地区や同和問題を知った時期【性別】（％）

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
6歳～12歳未満	41.2	43.4	39.5	42.9	43.3	37.1
12歳～15歳未満	23.4	24.4	25.3	19.2	25.1	27.9
18歳以降	7.6	7.2	10.7	9.2	8.6	10.2
15歳～18歳未満	8.4	8.4	9.9	8.2	7.0	9.8
おぼえていない	7.9	8.5	6.5	7.8	9.4	7.8
同和地区や同和問題は知らない	4.2	3.1	1.4	3.9	1.5	1.4
6歳未満	2.7	2.7	4.6	3.0	3.8	3.8
無回答	4.5	2.2	2.2	5.7	1.2	2.0

性別で見ると、男女ともに「6歳～12歳未満」の割合が最も高くなっている。また、「6歳～12歳未満」や「18歳以降」などでは女性の割合が高く、「12歳～15歳未満」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「同和地区や同和問題は知らない」の割合は男女ともに増加してきている。

表 2-4 同和地区や同和問題を知った時期【年齢別】 (%)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
6歳～12歳未満	11.8	29.6	58.6	65.5	48.4	31.8	29.3
12歳～15歳未満	5.9	13.0	11.2	11.5	28.5	26.8	24.5
18歳以降	0.0	5.2	4.1	5.0	5.3	12.0	13.1
15歳～18歳未満	5.9	7.0	5.3	2.7	7.5	15.4	7.8
おぼえていない	5.9	11.3	6.5	2.7	4.6	7.8	13.1
同和地区や同和問題は知らない	64.7	27.8	7.1	1.5	0.4	0.8	0.5
6歳未満	0.0	2.6	1.8	3.1	1.4	2.0	5.3
無回答	5.9	3.5	5.3	8.0	3.9	3.4	6.3

年齢別で見ると、10歳代では「同和地区や同和問題は知らない」が、そのほかの年齢層では「6歳～12歳未満」の割合が最も高くなっている。

また、20歳代の「同和地区や同和問題は知らない」や50歳代以上の年齢層の「12歳～15歳未満」が高い割合となっている。

表 2-5 同和地区や同和問題を知った時期【職業別】 (%)

	農林漁業	商工 サービス業	勤め	職員・公務員及び 医療関係者	教育・福祉 関係者	その他 自由業、 有職	家事 専業	生徒・ 学生	無職
6歳～12歳未満	41.3	48.8	49.1	56.8	45.3	32.4	10.0	30.3	
12歳～15歳未満	24.8	22.0	19.8	18.9	17.2	25.7	17.5	22.1	
18歳以降	5.5	7.9	6.1	4.2	10.9	14.5	2.5	12.3	
15歳～18歳未満	11.0	7.9	6.8	8.1	7.8	6.1	5.0	10.3	
おぼえていない	6.4	3.1	7.3	1.9	9.4	9.5	10.0	12.9	
同和地区や同和問題は知らない	1.8	3.1	3.3	3.5	3.1	3.4	50.0	1.8	
6歳未満	4.6	2.4	3.1	1.5	1.6	2.2	2.5	3.9	
無回答	4.6	4.7	4.5	5.0	4.7	6.1	2.5	6.4	

職業別で見ると、『生徒・学生』では「同和地区や同和問題は知らない」が、そのほかの職業では「6歳～12歳未満」の割合が最も高くなっている。

また、『農林漁業』と『家事専業』の「12歳～15歳未満」が高い割合となっている。

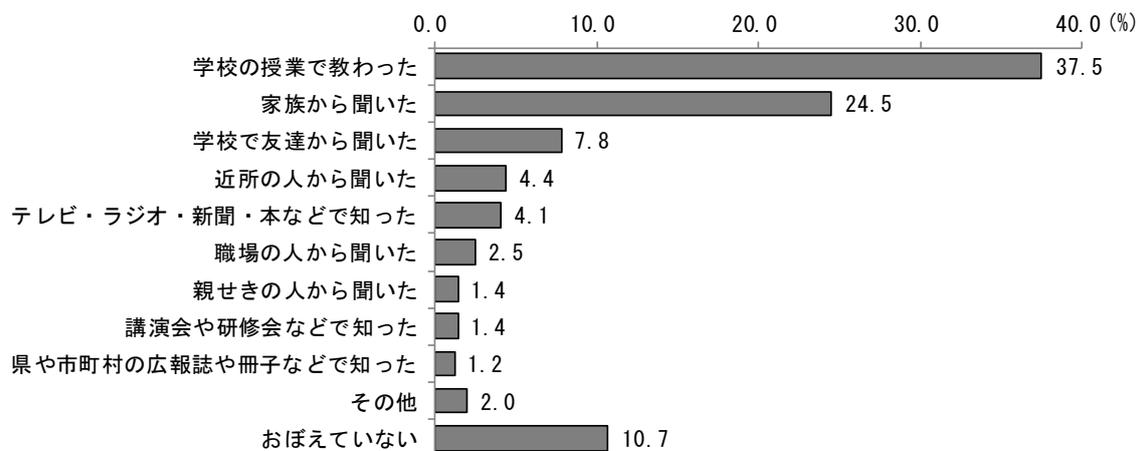
## (2) 同和地区や同和問題を知ったきっかけ

問2-2 あなたが、同和地区や同和問題についてはじめて知ったきっかけは、何ですか。

【○は1つだけ】

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. 家族から聞いた            | 2. 親せきの人から聞いた    |
| 3. 近所の人から聞いた          | 4. 職場の人から聞いた     |
| 5. 学校の授業で教わった         | 6. 学校で友達から聞いた    |
| 7. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った | 8. 講演会や研修会などで知った |
| 9. 県や市町村の広報誌や冊子などで知った | 10. その他（具体的に ）   |
| 11. おぼえていない           |                  |

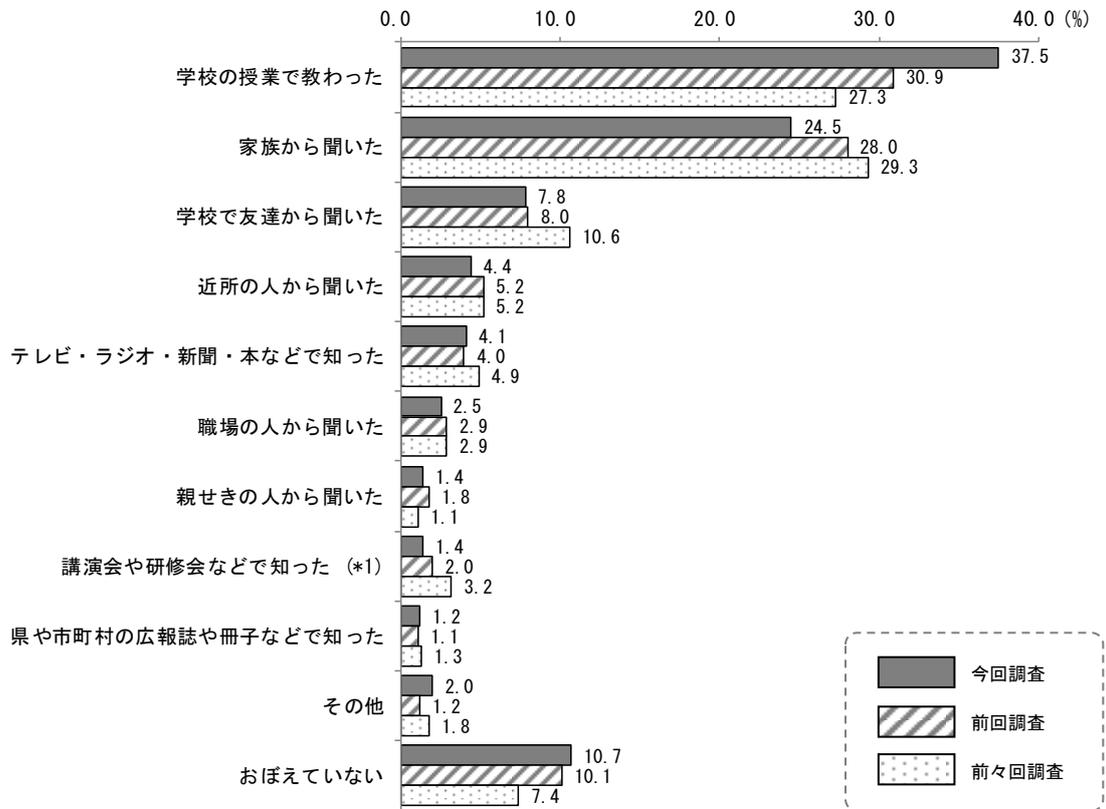
図2-6 同和地区や同和問題を知ったきっかけ（％）



同和地区や同和問題を知ったきっかけについては、「学校の授業で教わった」の割合が37.5%で最も高く、次いで「家族から聞いた」が24.5%、「おぼえていない」が10.7%となっている。

「その他」の記述としては、「映画」「なんとなく知った」「児童館」「インターネット」などがあつた。

図 2-7 同和地区や同和問題を知ったきっかけ (%) [過去調査との比較]



\*1 「講演会や研修会などで知った」は、前回・前々回調査「同和問題の講演会や研修会などで知った」との比較。

前回、前々回調査と比較すると、「学校の授業で教わった」や「おぼえていない」の割合は増加してきており、「家族から聞いた」や「学校で友達から聞いた」は減少してきている。そのほかの選択肢では、あまり変化が見られない。

表 2-8 同和地区や同和問題を知ったきっかけ【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
学校の授業で教わった	33.7	30.0	24.8	40.8	32.6	29.6
家族から聞いた	25.8	27.7	30.6	23.8	28.6	28.8
学校で友達から聞いた	8.2	9.7	10.6	7.5	6.9	10.7
近所の人から聞いた	5.1	4.2	5.7	3.7	6.2	4.4
テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	5.3	4.6	4.8	3.2	3.5	4.7
職場の人から聞いた	2.6	4.1	3.4	2.2	1.9	2.5
親せきの人から聞いた	1.2	2.6	1.0	1.6	1.2	1.2
講演会や研修会などで知った	1.2	1.4	3.1	1.5	2.6	3.1
県や市町村の広報誌や冊子などで知った	1.4	0.7	0.9	0.9	1.2	1.5
その他	1.4	0.7	2.3	2.5	1.7	1.5
おぼえていない	12.9	10.2	7.9	8.8	10.3	7.0
無回答	1.1	4.1	4.9	3.4	3.2	5.0

性別で見ると、男女ともに「学校の授業で教わった」の割合が最も高くなっている。また、「学校の授業で教わった」や「親せきの人から聞いた」などでは女性の割合が高く、「家族から聞いた」や「学校で友達から聞いた」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「学校の授業で教わった」の割合は男女ともに増加してきている。また、「家族から聞いた」は男女ともに減少してきている。

表 2-9 同和地区や同和問題を知ったきっかけ【年齢別】 (%)

	1 0 歳 代	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
学校の授業で教わった	80.0	57.0	69.6	70.3	50.2	19.8	6.5
家族から聞いた	0.0	13.9	6.1	14.4	22.7	35.3	32.8
学校で友達から聞いた	0.0	2.5	2.7	4.2	7.1	7.6	14.1
近所の人から聞いた	0.0	0.0	0.7	0.8	0.7	4.7	11.7
テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	0.0	1.3	4.7	0.8	2.6	7.6	4.6
職場の人から聞いた	0.0	0.0	0.0	0.4	2.6	5.0	2.7
親せきの人から聞いた	0.0	2.5	0.0	0.8	0.7	2.3	1.9
講演会や研修会などで知った	0.0	2.5	1.4	0.4	0.0	2.6	1.6
県や市町村の広報誌や冊子などで知った	0.0	1.3	0.0	0.0	0.7	0.9	2.7
その他	20.0	2.5	2.7	1.3	1.9	1.5	2.4
おぼえていない	0.0	13.9	10.1	4.2	8.9	10.8	15.4
無回答	0.0	2.5	2.0	2.1	1.9	2.0	3.5

年齢別でみると、50歳代以下の年齢層では「学校の授業で教わった」が、60歳代以上の年齢層では「家族から聞いた」の割合が最も高くなっている。

また、「学校で友達から聞いた」の割合は、年齢層が上がるほど高くなっている。

表 2-10 同和地区や同和問題を知ったきっかけ【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工	勤 め	職 員 、 医 療 、 公 務 員 及 び	教 育 ・ 福 祉	そ の 他 業 、 自 由 業 、 有 職	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
学校の授業で教わった	26.5	37.6	53.5	63.3	40.7	21.6	52.6	12.6		
家族から聞いた	30.4	29.1	20.5	17.3	20.3	30.2	21.1	29.4		
学校で友達から聞いた	4.9	8.5	5.1	4.2	11.9	9.3	5.3	12.3		
近所の人から聞いた	9.8	1.7	1.8	0.4	3.4	6.8	0.0	8.7		
テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った	2.0	8.5	2.6	3.0	3.4	3.7	5.3	6.2		
職場の人から聞いた	0.0	3.4	2.8	0.8	3.4	2.5	0.0	3.4		
親せきの人から聞いた	2.9	0.0	0.8	0.8	1.7	1.2	0.0	2.8		
講演会や研修会などで知った	2.0	0.9	0.8	1.7	0.0	3.7	0.0	0.8		
県や市町村の広報誌や冊子などで知った	2.9	1.7	0.0	0.8	0.0	0.6	5.3	2.0		
その他	1.0	0.0	2.0	0.8	0.0	4.3	5.3	2.8		
おぼえていない	16.7	6.8	8.2	5.1	13.6	13.6	5.3	14.8		
無回答	1.0	1.7	2.0	1.7	1.7	2.5	0.0	4.2		

職業別でみると、『農林漁業』『家事専業』『無職』では「家族から聞いた」が、そのほかの職業では「学校の授業で教わった」の割合が最も高くなっている。

また、『農林漁業』の「学校の授業で教わった」や『商工サービス業』の「家族から聞いた」が高い割合となっている。

【参考】全国調査（内閣府 人権擁護に関する世論調査）

<部落差別等の同和問題を知ったきっかけ>

問 10 あなたは、部落差別等の同和問題について、初めて知ったきっかけは、何からですか。この中から1つだけお答えください。

	平成 29 年 10 月	(参考)平成 24 年 8 月
・学校の授業で教わった	22.9%	19.5%
・家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた	19.6%	17.1%
・テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	16.5%	15.7%
・部落差別等の同和問題を知らない	17.7%	20.8%

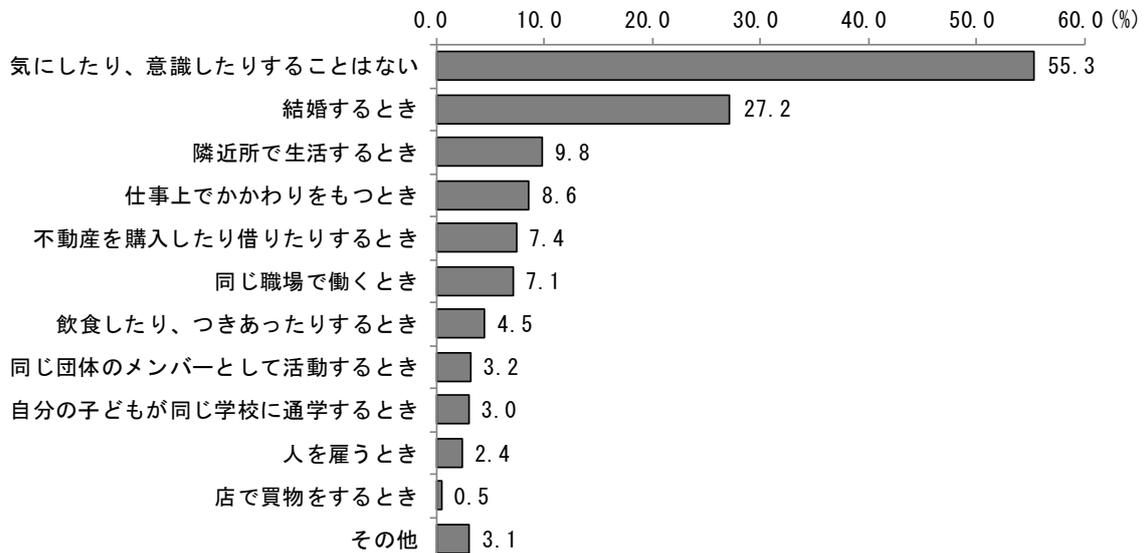
(3) 同和地区や同和地区の人ということを感じたり、意識する場合

問2-3 あなたは、同和地区や同和地区の人ということを感じたり、意識したりすることがありますか。

【○はいくつでも】

1. 感じたり、意識したりすることはない  
→ (この項目を選ばれた方は、他の項目には○印をつけないでください)
2. 結婚するとき
3. 人を雇うとき
4. 同じ職場で働くとき
5. 自分の子どもが同じ学校に通学するとき
6. 隣近所で生活するとき
7. 同じ団体(町内会、自治会、PTA、サークルなど)のメンバーとして活動するとき
8. 飲食したり、つきあったりするとき
9. 不動産(家、土地など)を購入したり借りたりするとき
10. 店で買物をするとき
11. 仕事上でかかわりをもつとき
12. その他(具体的に )

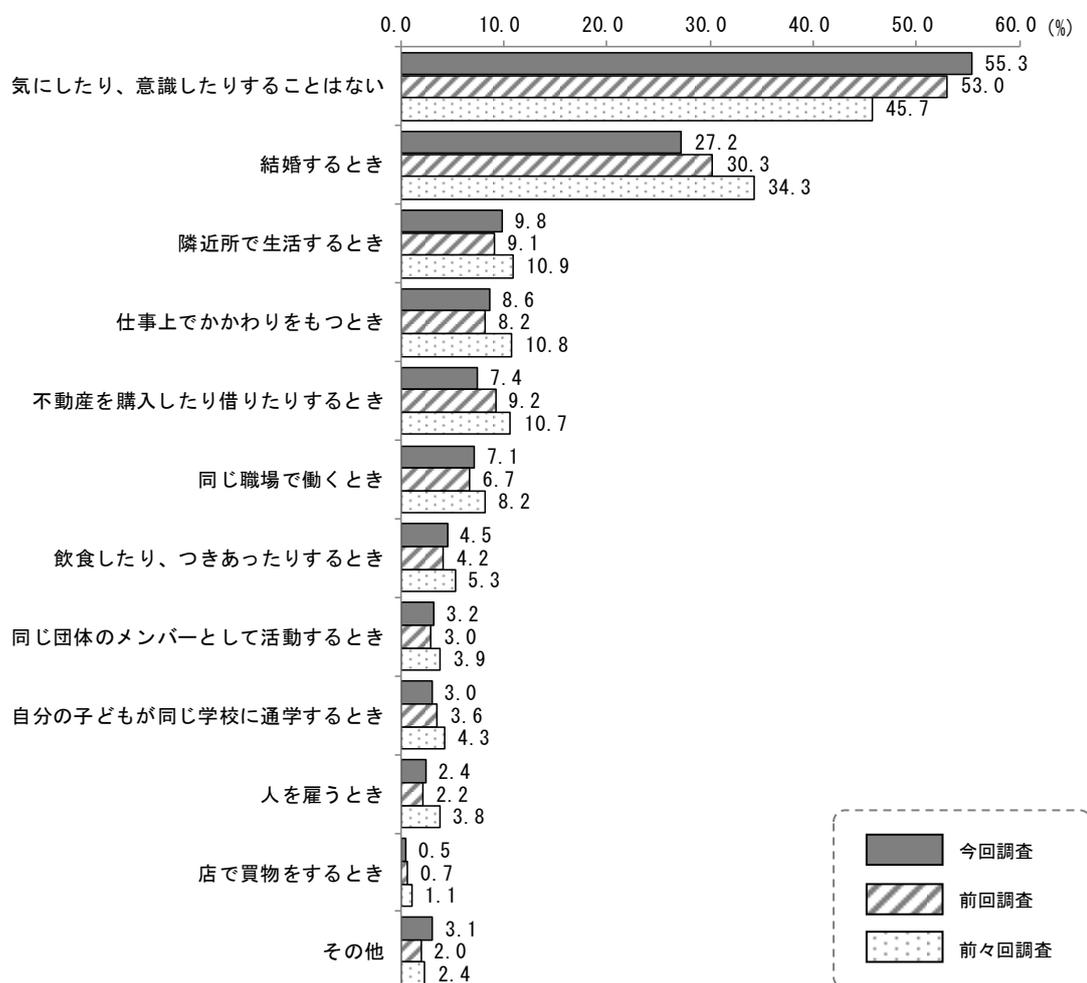
図 2-11 同和地区や同和地区の人ということを感じたり、意識する場合 (%)



同和地区や同和地区の人を感じたり意識する場合については、「感じたり、意識したりすることはない」の割合が 55.3%で最も高く、次いで「結婚するとき」が 27.2%、「隣近所で生活するとき」が 9.8%となっている。

「その他」の記述としては、「差別的な発言を耳にしたとき」「本人次第」「知った時に意識すると思うが、気にならない」などがあった。

図 2-12 同和地区や同和地区の人ということを気にしたり、意識する場合 (%) [過去調査との比較]



前回、前々回調査と比較すると、「気にしたり、意識したりすることはない」の割合は増加してきており、「結婚するとき」や「不動産を購入したり借りたりするとき」は減少している。

そのほかの選択肢では、あまり変化が見られない。

表 2-13 同和地区や同和地区の人ということを気にしたり、意識する場合【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
気にしたり、意識したりすることはない	59.3	54.3	46.0	52.1	53.3	45.8
結婚するとき	22.2	28.9	32.1	31.3	32.0	36.4
隣近所で生活するとき	8.7	10.9	10.5	10.8	7.9	11.5
仕事上でかかわりをもつとき	9.6	11.3	13.5	7.7	6.1	8.7
不動産を購入したり借りたりするとき	4.7	9.2	10.1	9.6	9.2	11.4
同じ職場で働くとき	6.1	8.6	8.1	7.8	5.4	8.1
飲食したり、つきあったりするとき	4.3	5.6	6.4	4.5	3.1	4.6
同じ団体のメンバーとして活動するとき	2.6	3.4	4.4	3.6	2.6	3.8
自分の子どもが同じ学校に通学するとき	1.7	4.2	3.7	4.0	3.1	4.9
人を雇うとき	2.8	3.2	4.8	2.1	1.5	3.1
店で買物をするとき	0.2	0.9	1.0	0.9	0.6	1.2
その他	3.6	1.9	2.9	2.6	2.2	2.2

性別で見ると、男女ともに「気にしたり、意識したりすることはない」の割合が最も高くなっている。また、「結婚するとき」や「隣近所で生活するとき」などでは女性の割合が高く、「気にしたり、意識したりすることはない」や「仕事上でかかわりをもつとき」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「結婚するとき」の割合は男女ともに減少してきている。

また、男性では「結婚するとき」をはじめ、ほとんどの選択肢の割合は前回調査より減少している。一方で、女性では「結婚するとき」は減少しているが、そのほかの選択肢は増加している。

表 2-14 同和地区や同和地区の人ということを気にしたり、意識する場合【年齢別】 (%)

	1 0 歳 代	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
気にしたり、意識したりすることはない	80.0	75.9	64.2	61.9	50.6	50.1	50.9
結婚するとき	20.0	10.1	20.9	26.3	30.5	31.2	27.9
隣近所で生活するとき	20.0	6.3	10.8	10.6	8.9	11.1	9.2
仕事上でかかわりをもつとき	0.0	2.5	6.8	8.9	11.9	9.3	7.3
不動産を購入したり借りたりするとき	0.0	7.6	8.8	9.3	7.1	7.6	5.7
同じ職場で働くとき	0.0	3.8	4.7	7.6	8.6	6.7	7.6
飲食したり、つきあったりするとき	0.0	2.5	3.4	3.8	4.8	4.4	5.4
同じ団体のメンバーとして活動するとき	0.0	3.8	2.7	4.2	4.1	1.2	3.8
自分の子どもが同じ学校に通学するとき	0.0	1.3	4.1	4.7	3.7	2.0	2.2
人を雇うとき	0.0	0.0	2.0	2.1	3.3	2.0	3.0
店で買物をするとき	0.0	0.0	0.7	0.8	0.7	0.3	0.5
その他	0.0	1.3	2.7	3.0	4.8	3.5	1.9

年齢別で見ると、全ての年齢層で「気にしたり、意識したりすることはない」の割合が最も高く、若い年齢層ほどこの割合が高くなっている。

また、気にしたり意識したりする場合では、全ての年齢層で「結婚するとき」が最も高くなっている。

表 2-15 同和地区や同和地区の人ということにしたり、意識する場合【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工 業	勤 め	職 員 、 医 療 、 公 務 員 及 び	教 育 ・ 福 祉	そ の 他 業 、 有 職	自 由 業 、 専 業	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
気にしたり、意識したりすることはない	53.9	53.8	57.3	61.2	54.2	52.5	63.2	51.5			
結婚するとき	21.6	29.1	28.1	23.2	33.9	31.5	26.3	26.1			
隣近所で生活するとき	3.9	6.0	10.7	10.5	13.6	7.4	10.5	11.5			
仕事上でかかわりをもつとき	8.8	12.8	10.7	8.0	8.5	2.5	5.3	7.8			
不動産を購入したり借りたりするとき	3.9	6.0	9.5	5.5	1.7	13.6	5.3	6.2			
同じ職場で働くとき	8.8	3.4	6.6	7.6	8.5	4.9	5.3	7.8			
飲食したり、つきあったりするとき	4.9	6.0	3.6	3.4	3.4	1.9	5.3	6.2			
同じ団体のメンバーとして活動するとき	4.9	3.4	3.1	2.5	1.7	3.1	5.3	3.1			
自分の子どもが同じ学校に通学するとき	2.9	1.7	4.3	3.0	1.7	4.3	5.3	1.1			
人を雇うとき	4.9	6.0	2.3	0.4	8.5	1.2	0.0	1.7			
店で買物をするとき	1.0	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6			
その他	2.9	6.0	3.1	3.8	0.0	3.1	5.3	2.0			

職業別でみると、全ての職業で「気にしたり、意識したりすることはない」の割合が最も高く、次いで「結婚するとき」が高くなっている。

【参考】全国調査（内閣府 人権擁護に関する世論調査）

< 部落差別等の同和問題に関する人権問題 >

問 10 更問 あなたは、部落差別等の同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

	平成 29 年 10 月	(参考)平成 24 年 8 月
・ 結婚問題で周囲の反対を受けること	40.1%	37.3%
・ 差別的な言動をされること	27.9%	24.9%
・ 身元調査をされること	27.6%	27.8%
・ 就職・職場で不利な扱いを受けること	23.5%	23.2%

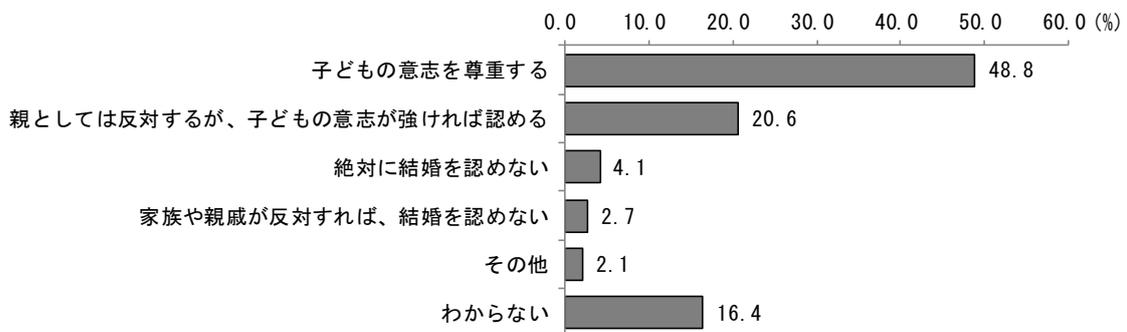
(4) お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合について

問2-4 かりに、あなたにお子さんが出て、そのお子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合、あなたはどうしますか。

【○は1つだけ】

1. 子どもの意志を尊重する
2. 親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める
3. 家族や親戚が反対すれば、結婚を認めない
4. 絶対に結婚を認めない
5. その他（具体的に ）
6. わからない

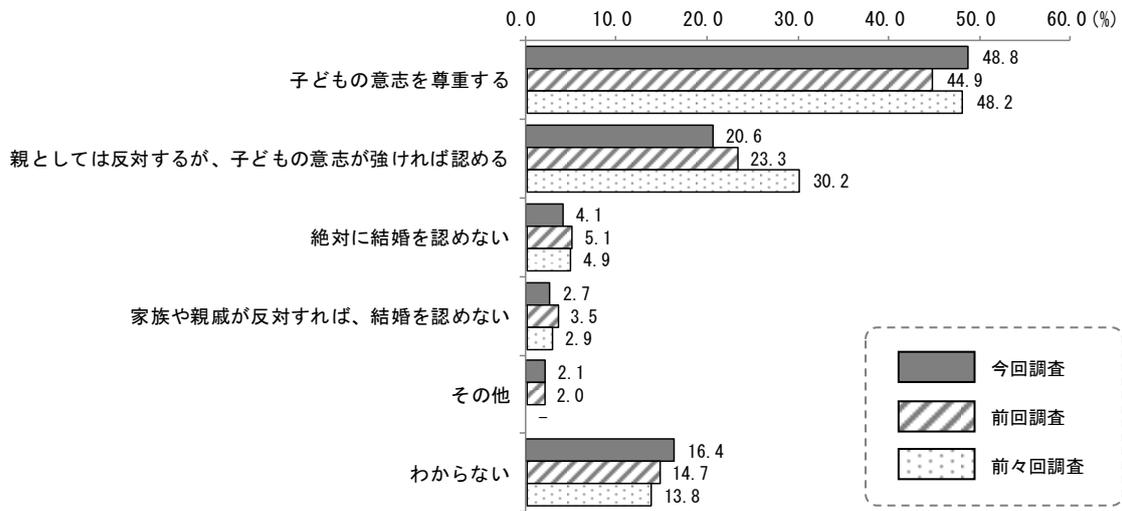
図2-16 お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合について (%)



お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合については、「子どもの意志を尊重する」の割合が48.8%で最も高く、次いで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める」が20.6%、「わからない」が16.4%となっている。

「その他」の記述としては、「同和地区かどうかは関係ない」「相手方の人間性で判断する」などがあつた。

図 2-17 お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合について (%) [過去調査との比較]



\* 前々回調査は、既婚者であることが回答の条件。  
 \* 前々回調査には、「その他」の回答項目は設定していない。

前回、前々回調査と比較すると、「わからない」の割合は増加してきており、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める」は減少してきている。

また、前回調査より、「子どもの意志を尊重する」の割合は増加し、「絶対に結婚を認めない」は減少している。

表 2-18 お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合について【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
子どもの意志を尊重する	54.0	48.3	52.8	45.0	43.4	44.9
親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める	17.9	24.0	30.1	22.8	23.2	30.2
絶対に結婚を認めない	3.6	5.3	4.2	4.6	5.0	5.5
家族や親戚が反対すれば、結婚を認めない	2.6	3.7	2.0	2.9	3.5	3.7
その他	2.8	1.8	-	1.6	2.1	-
わからない	13.8	12.0	10.9	18.1	17.1	15.7
無回答	5.3	4.9	-	5.1	5.8	-

性別で見ると、男女ともに「子どもの意志を尊重する」の割合が最も高くなっている。また、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める」などでは女性の割合が高く、「子どもの意志を尊重する」などでは男性の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「子どもの意志を尊重する」の割合は男女ともに増加している。また、「絶対に結婚を認めない」は男女ともに減少している。

表 2-19 お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合について【年齢別】 (%)

	1 0 歳 代	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
子どもの意志を尊重する	60.0	60.8	56.8	50.4	48.3	48.1	43.4
親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める	20.0	10.1	10.8	14.0	20.4	23.9	27.9
絶対に結婚を認めない	0.0	0.0	1.4	8.1	4.5	3.2	4.3
家族や親戚が反対すれば、結婚を認めない	0.0	2.5	2.0	1.3	1.5	3.2	4.6
その他	0.0	2.5	4.1	1.7	1.5	2.6	1.6
わからない	20.0	19.0	20.9	19.5	17.8	14.6	11.9
無回答	0.0	5.1	4.1	5.1	5.9	4.4	6.2

年齢別で見ると、全ての年齢層で「子どもの意志を尊重する」の割合が最も高くなっている。

次いで10歳代では「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める」と「わからない」が、20歳代、30歳代、40歳代では「わからない」が、50歳代以上の年齢層では「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める」の割合が高くなっている。

表 2-20 お子さんが結婚しようとしている相手が、同和地区の人だとわかった場合について【職業別】 (%)

	農 林 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工 業	勤 め	職 員 、 医 療 関 係 者 及 び 公 務 員	教 育 ・ 福 祉 ・ 医 療 関 係 者 及 び 公 務 員	そ の 他 業 、 自 由 業 、 有 職	家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
子どもの意志を尊重する	52.0	47.0	49.4	57.8	42.4	41.4	68.4	46.5		
親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める	21.6	25.6	20.7	9.7	25.4	29.0	10.5	21.6		
絶対に結婚を認めない	2.0	4.3	3.6	5.1	8.5	3.7	0.0	4.2		
家族や親戚が反対すれば、結婚を認めない	2.0	2.6	1.8	0.8	6.8	5.6	5.3	3.4		
その他	2.9	3.4	1.0	5.1	0.0	1.9	0.0	1.4		
わからない	14.7	17.1	16.9	16.9	13.6	14.2	15.8	16.2		
無回答	4.9	0.0	6.6	4.6	3.4	4.3	0.0	6.7		

職業別でみると、全ての職業で「子どもの意志を尊重する」の割合が最も高くなっている。

次いで『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』と『生徒・学生』では「わからない」が、そのほかの職業では「親としては反対するが、子どもの意志が強ければ認める」の割合が高くなっている。

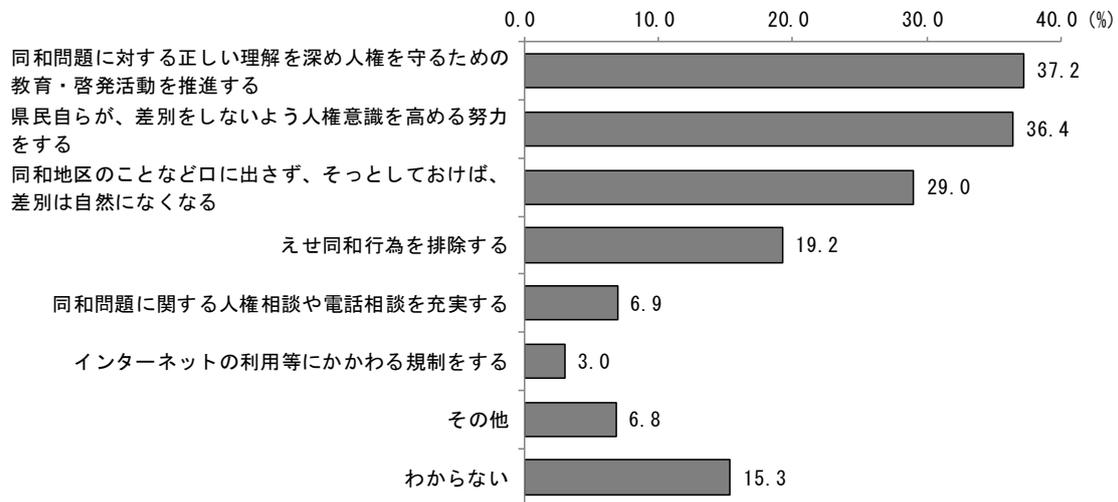
(5) 同和問題の解決方法

問 2-5 あなたは、同和問題を解決するためには、どのようなことが大切だと思いますか。

【〇は3つまで】

1. 同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する
2. 県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする
3. 同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる
4. 同和問題に関する人権相談や電話相談を充実する
5. えせ同和行為を排除する
6. インターネットの利用等にかかわる規制をする
7. その他（具体的に ）
8. わからない

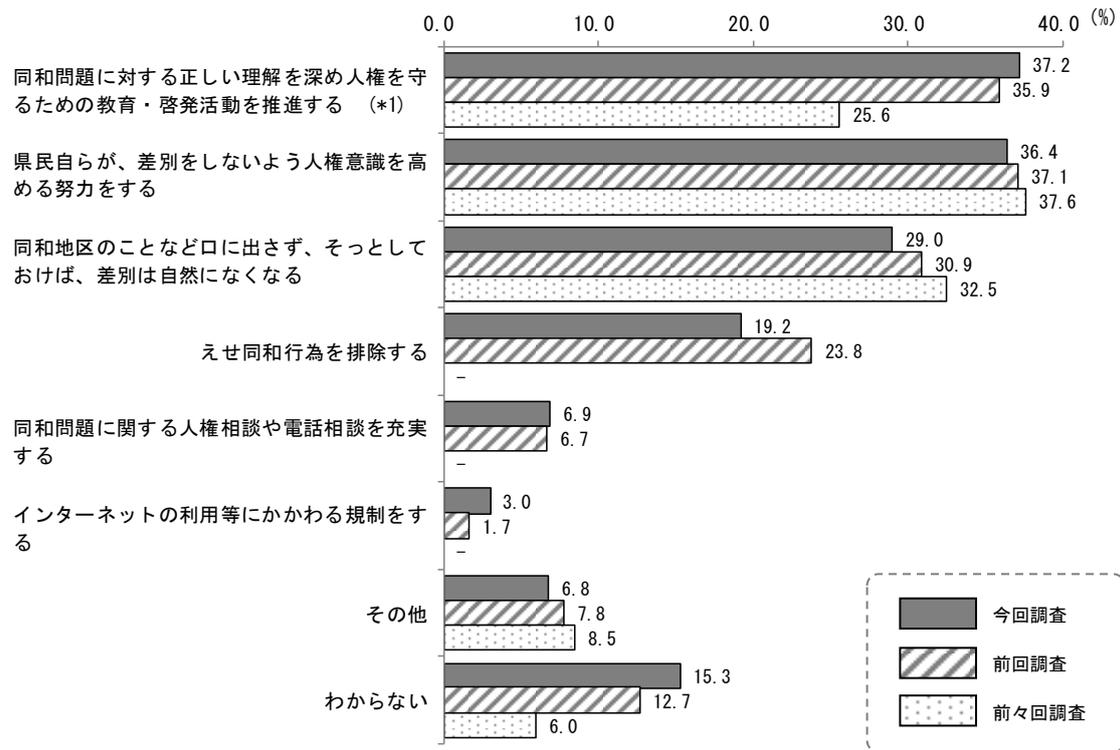
図 2-21 同和問題の解決方法（％）



同和問題の解決方法については、「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合が 37.2%で最も高く、次いで「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」が 36.4%、「同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」が 29.0%となっている。

「その他」の記述としては、「小学校のうちでの差別・偏見をなくす教育」「同和地区の方々の意識も変えること」「解決しないと思う」などがあつた。

図 2-22 同和問題の解決方法（％） [過去調査との比較]



\*1 「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」は、前回・前々回調査「行政が、差別をなくし人権を大切にす教育・啓発活動を積極的に行う」との比較。

\* 前々回調査の回答条件は【2つまで○】。

前回・前々回調査と比較すると、「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」や「わからない」の割合は増加してきており、「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」や「同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」は減少してきている。

また、前回調査より「インターネットの利用等にかかわる規制をする」の割合は増加し、「えせ同和行為を排除する」は減少している。

表 2-23 同和問題の解決方法【性別】 (%)

	男性			女性		
	今回調査	前回調査	前々回調査	今回調査	前回調査	前々回調査
同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する	39.3	37.7	26.5	35.9	35.2	24.9
県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする	35.7	36.2	38.2	36.7	39.1	37.6
同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる	29.7	33.2	31.6	28.6	30.1	33.3
えせ同和行為を排除する	22.2	29.8	-	16.8	20.0	-
同和問題に関する人権相談や電話相談を充実する	7.8	7.8	-	6.2	5.8	-
インターネットの利用等にかかわる規制をする	2.6	1.9	-	3.4	1.5	-
その他	6.8	9.2	9.9	6.8	6.8	7.6
わからない	14.6	10.2	4.7	15.7	14.7	7.0

性別で見ると、女性では「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」が、男性では「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合が最も高くなっている。また、「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」などでは女性の割合が高く、「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」などでは男性の割合が高くなっている。

前回、前々回調査と比較すると、「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」と「わからない」の割合は男女ともに増加してきている。

また、前回調査より、「インターネットの利用等にかかわる規制をする」の割合は男女ともに増加している。

表 2-24 同和問題の解決方法【年齢別】 (%)

	1 0 歳 代	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する	80.0	43.0	43.9	32.2	36.8	38.8	35.2
県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする	40.0	32.9	30.4	30.9	37.5	39.1	39.0
同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる	40.0	25.3	28.4	29.2	22.7	27.1	36.3
えせ同和行為を排除する	20.0	11.4	23.0	24.2	22.3	21.6	11.7
同和問題に関する人権相談や電話相談を充実する	0.0	10.1	8.1	5.9	7.1	7.0	6.2
インターネットの利用等にかかわる規制をする	0.0	3.8	5.4	3.4	3.3	3.8	0.8
その他	0.0	2.5	10.1	6.4	10.0	6.4	4.9
わからない	0.0	16.5	13.5	17.8	14.9	16.0	13.8

年齢別で見ると、40歳代以下の年齢層では「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」が、50歳代以上の年齢層では「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」の割合が最も高くなっている。

また、「同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」では、10歳代と70歳以上でそれぞれ2番目に高くなっている。

表 2-25 同和問題の解決方法【職業別】

	農 林 漁 業	サ ー ビ ス 業	商 工	勤 め	職 員 、 公 務 員	医 療 関 係 者 及 び	教 育 ・ 福 祉	そ の 他 有 職	自 由 業 、 家 事 専 業	生 徒 ・ 学 生	無 職
同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する	33.3	30.8	35.0	48.9	27.1	40.1	52.6	35.3			
県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする	32.4	35.0	33.8	42.2	27.1	42.0	21.1	36.4			
同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば、差別は自然になくなる	41.2	27.4	26.9	22.4	45.8	24.1	26.3	32.5			
えせ同和行為を排除する	17.6	23.9	22.3	19.4	28.8	16.0	15.8	14.8			
同和問題に関する人権相談や電話相談を充実する	5.9	2.6	6.6	10.5	3.4	6.8	0.0	7.6			
インターネットの利用等にかかわる規制をする	1.0	0.9	2.8	6.8	3.4	2.5	5.3	2.2			
その他	8.8	10.3	6.4	8.4	8.5	7.4	5.3	4.2			
わからない	12.7	16.2	15.6	11.4	18.6	16.7	15.8	16.2			

職業別で見ると、『農林漁業』と『自由業、その他有職』では「同和地区のことなど口に出さず、そっとしておけば差別は自然になくなる」が、『商工サービス業』『家事専業』『無職』では「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」が、『勤め』『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』『生徒・学生』では「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合が、それぞれ最も高くなっている。

また、『教育・福祉・医療関係者及び職員、公務員』の「県民自らが、差別をしないよう人権意識を高める努力をする」や『家事専業』の「同和問題に対する正しい理解を深め人権を守るための教育・啓発活動を推進する」が高い割合となっている。